

彼方「かなた」

校長通信

H29.10.12

Vol.17

【校内適応教室の運営について】

「学校に行きたい。できれば皆と勉強したいし、行事にも参加したい。休みたくて休んでいいわけじゃない。」いろいろな理由で登校できない状態ですが、



心の底では、以前と同じように学校生活を送りたいと思っています。そんな思いに寄り添い、一歩踏み出せるように校内に「適応教室」を開設しました。

我孫子市には教育委員会が運営する「ヤング手賀沼」という適応指導教室が、湖北地区公民館の近くにあります。市内で不登校になっている生徒が利用しています。ただ、本校の学区から通うには少し不便なためなかなか利用できないでいる生徒も少なくありません。そこで、校内に同じような教室を開設し、応援したいという思いで、一階にある資料室を整理し、机や空調を入れて、十名ほどで学習できる小部屋（写真）を作り上げました。

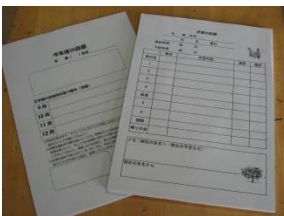


十月十七日（火）から後期の日課が始まります。それに合わせて「適応教室」を運営していきたいと考え、希望する保護者の皆さんにお知らせし、お集まりいただきました。その中で「適応教室」の運営方針等についてお話しさせていただきました。

〈利用にあたって〉

- ① 学校は社会性を学ぶ場所であり、少人数でも他の生徒、先生と関われる教室にしたい。
- ② 利用する生徒にとって一番ホッとできる安全で安心な教室にしたい。
- ③ エネルギーを蓄えるための教室なので、仲間を大切に、「学び合い、支え合う」教室にしたい。
- ④ 教室内のことは、利用する生徒同士で話し合い、決定していく教室にしたい。
- ⑤ 開設時間は二校時から五校時までとし、自分で登校時間や下校時間を決められる教室にしたい。
- ⑥ 原則として担当する先生の持ち教科の授業が受けられる教室にしたい。（ただし、他教科を自学することもできる。）
- ⑦ 必要によってはレクリエーションや校外学習等の行事を企画することもできる教室にしたい。
- ⑧ 最終目標は、自分の教室に戻ることなので、エネルギーが溜まってきたら、その練習もできる教室にしたい。
- ⑨ 利用する保護者同士の横のつながりをつくり、必要により保護者会を開催し、研修や相談ができる教室にしたい。
- ⑩ 事前の欠席連絡は不要で、登校したときに日誌を記入することで担任への報告に変えられる教室にしたい。

※ 室の利用については、毎月開催される長欠対策検討委員会で検討し、承認するようにする。以上のことを原則とし、その都度



必要に応じて検討を加え、利用する生徒のエネルギーを第一に考え、対応していきたいと思えます。また、保護者の皆さんにとっても悩みを共有し、学校以外での相談や活動ができるように、不定期ですが会合を設定し、コミュニティづくりを進めていきたいと思っています。

原因やきっかけは人それぞれです。そして問題が解決できたとしても、実際には学校に戻れない生徒も少なくありません。原因を把握して解決していくことは必要です。学校でも現在、授業改善を通してより良い人間関係が構築されるように取り組んでいます。授業ルールを見直したり、「対話的な学び」ができるように人間関係づくりを進めたりすることで、いじめやかからかい等が起きにくい、居心地の良い教室づくりを目指しています。すぐに成果が出てくるものでもありませんが、必ず効果は表れます。私たち職員も「言葉＝言葉」を意識し、投げかける言葉に気を付けて指導にあたっています。それでもエネルギーがなくなり、頑張れなくなる生徒は出てきます。その生徒にとっての安全地帯（エネルギーを充電する場所）が確立できていないからです。「笑顔」と「前向きな言葉」で溢れる適応教室を目指すことでエネルギーが蓄えられると思います。そうすれば、挑戦する力が出てきます。上手くいかなくても頑張れる耐性が生まれ「心豊かであくまじい」生徒になります。「忍と耐」です。

「一人の友も置き去らじ」です。ピンチをチャンスに変えられる教室を目指して、みんなで「適応教室」を支えていきたいと思えます。